

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和4年度】

2023年 4月 11日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町3-2-6 麹町本多ビル3B

評価機関名 一般社団法人日本福祉サービス評価機構

認証評価機関番号

機構 02 - 033

電話番号 03-3262-2260

代表者氏名 代表理事 太田 吉泰

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	太田 吉泰	経営	H0301059
	②	笹野 武則	経営	H0901035
	③	伊藤 善彦	福祉	H0301060
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	障害者支援施設			
	<input checked="" type="checkbox"/> 生活介護			
	<input type="checkbox"/> 自立訓練(機能訓練)			
	<input type="checkbox"/> 自立訓練(生活訓練)			
	<input type="checkbox"/> 就労移行支援			
	<input type="checkbox"/> 就労継続支援(A型)			
	<input type="checkbox"/> 就労継続支援(B型)			
<input checked="" type="checkbox"/> 施設入所支援				
評価対象事業所名称	友愛学園成人部			指定番号 1312800046
事業所連絡先	〒	198-0001		
	所在地	東京都青梅市成木2丁目130番2		
	TEL	0428-74-4192		
事業所代表者氏名	宮崎 啓太			
契約日	2022年 7月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2022年 9月 6日			
利用者調査結果報告日	2022年 10月 7日			
自己評価の調査票配付日	2022年 7月 26日			
自己評価結果報告日	2022年 10月 7日			
訪問調査日	2022年 10月 19日			
評価合議日	2022年 11月 29日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、重度の利用者が多いので事業者と協議して、調査に対応できる利用者を対象に聞き取り方式で実施しました。職員の自己評価は、職員会議で評価の目的と手法について説明して実施しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2023年 3月 31日

事業者代表者氏名 宮崎 啓太

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)利用者一人一人をかけがえのない存在として大切に、利用者の個性、主体性、可能性を尊ぶ 2)いかなる差別、虐待、人権侵害も行わない 3)個別性を尊重した支援に取り組む 4)より良い生活環境を心がける 5)QOLを念頭においた支援の実践を行う</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> * 利用者の願いや思いに耳を傾け、理解し、その実現に向けて真摯に取り組む姿勢を持ち職務に従事する人材。 * 利用者の望む生活の実現の為、自身の知識や経験を深め、自己研鑽する人材。 * 利用者支援や、社会貢献などのソーシャルアクションを通じ、職務職責を楽しむことが出来る人材。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 利用者の思いや希望に共感し、その実現に向けて全力で取り組む姿勢を期待する。 * 自身の行動や支援が、利用者の生活の質、幸福度に繋がることを理解し、内省をもって日々支援を行う姿勢を期待する。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-1	透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる
タイトル①	表現活動である「工房YUAI」の活動とその広報活動に力を入れて取り組んでいます	
内容①	利用者の表現活動である「工房YUAI」の活動とその広報活動に力を入れて取り組んでいます。表現活動から生まれる作品は、各地の作品展や公募展などで紹介されて、「工房YUAI」の活動を広く知らせる役割を果たしています。成人部としても作品展を主催するほか、Action Art Project を設置して、「違いを認め合う共生社会の実現」、「障害のある方の魅力発信」を目的にタブロイド紙を発行しています（2年に1回）。また、「工房YUAI」独自のホームページ：YUAI PLUS を開設して、情報発信に取り組んでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-2	利用者が主体性を持って、充実した時間を過ごせる場になるような取り組みを行っている
タイトル②	毎年、食事の質の向上に取り組む、主菜の増量などの改善を重ねてきています	
内容②	毎年、食事の質の向上に取り組む、肉や魚など主菜の増量、ソフト食の導入、季節の果物の提供、食材料費配分の適正化などの改善を重ねてきています。毎月、給食会議を開いて委託事業者を含めて、残食状況や利用者・職員の意見をもとに食事の内容や献立などについて検討しています。栄養マネジメントを行い、栄養ケア計画を個別に作成するとともに食事が生活の楽しみという認識をもとに季節感のある食事を基本に嗜好調査による希望メニューや行事食の提供も行っています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「熱中できる時間」「その人らしく過ごす」をコンセプトに多種多様なメニューを用意して活動の場を提供しています
	内容	「熱中できる時間」「その人らしく過ごす」をコンセプトに多種多様なメニューを用意して活動の場を提供しています。メニューは20種類を超え、運動メニュー、音楽活動、リラクゼーション、創作活動などがあり、利用者が自分の希望する活動を選んで「熱中」「自分らしく過ごす」ことができるよう支援を行っています。特色である創作活動(表現活動)から生まれる作品は個性的で独特の味わいを感じさせるものが多く、社会的に高い評価を得ています。この利用者の活動を支えるために基準以上の職員を配置して個別活動、グループ活動に対応しています。
2	タイトル	ユニットケアを行い、利用者の障害特性や心身の状況に合わせて個別に支援を行うことを心がけています
	内容	ユニットは9つありますが、利用者の障害特性等を考慮して大まかに<介護・準介護系>、<環境調整系>、<準自立系>に区分して支援を行っています。1ユニットの利用者は6～8人とし、利用者の障害特性や心身の状況に合わせて個別に支援を行うことを心がけています。個別支援計画の作成にはユニットの担当職員も参画し、支援計画に基づいて支援を行うよう取り組んでいます。余暇活動の支援に見られるように利用者の希望や意向を大切に、希望や意向を具体化するために利用者と一緒に考え、計画を立て、実行しています。
3	タイトル	看護師は医療機関との信頼関係を築き、利用者の入退院や通院の調整がスムーズに行えるようになっていきます
	内容	利用者の重度高齢化の中では、医療機関との連携は大事な課題です。現在、嘱託医には内科2か所、精神科1か所に委嘱し、訪問歯科を含めて提携して利用者の健康管理を行っています。また、入院には主に5か所の医療機関にお願いして連携を図っています。看護師は医療機関との信頼関係を築き、利用者の入退院や通院の調整がスムーズに行えるようになっており、以前のような長期入院のケースはなくなっています。内部的にも医務と支援現場の意志疎通がスムーズに行われ、相互に連携して利用者の支援を行っています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者の地域との接点が少くなる状況の中で「利用者が地域社会の一員として生活するための支援」をどのように考えるか、検討が望まれます
	内容	コロナ禍の影響が大きいと思いますが、この間、利用者が地域の活動に参加したり、地域の人と交流したりする機会が少なくなっています。学園の地域行事(学園祭など)もコロナのため中止せざるを得ない状況ですし、地域でも高齢化の進行とともに行事などが減る傾向もあります。利用者も重度高齢化や介護度の高まりなどから、地域の活動に参加することが難しくなっているという事情もあります。このような状況の中で「利用者が地域社会の一員として生活するための支援」をどのように考えるか、今後の検討が望まれます。
2	タイトル	引き続き、施設・設備のメンテナンスを行い、利用者が安心して生活できる環境を整えていくことが望まれます
	内容	施設の老朽化が進んでいます。施設の建て替え計画は大詰めに迎えているようですが、実現は数年先になるこのことです。実現が待たれますが、それまでは現在の施設での生活が続きます。これまでも利用者の生活の場として、環境の維持・整備に努めてきていますが、引き続き、施設・設備のメンテナンスを行い、利用者が安心して生活できる環境を整えていくことが望まれます。
3	タイトル	職員が目標を持って取り組み、新しい課題に挑戦する組織風土をつくるためにも人事評価制度に対する理解を深めていくことが望まれます
	内容	新しい人事評価制度を実施して、職務に求められる能力の基準を明示し、それをもとに人材の育成に取り組み始めています。成人部では職員研修に力を入れ、WEB方式を取り入れて研修の機会を増やすなど積極的に職員育成に取り組んでいます。一方、今回の職員自己評価では職員の組織に対する信頼度や人事制度に関する理解は十分とはいえないように思われます。学園の理念の実現に向けて職員がキャリア形成に目標を持って取り組み、新しい課題に挑戦するような組織風土をつくるためにも職員の人事評価制度に対する理解を深めていくことが望まれます。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	個別の支援方針をいかしながら、利用者に合った自立生活を送るための支援をしている
タイトル①	利用者の希望や状況を丁寧に聞くとともに家族の相談にも対応しています	
内容①	受け入れにあたっては、利用者・家族の希望や生活環境等を丁寧に聞き、個別支援計画に反映し、計画に沿って支援を行うよう努めています。また、家族の困りごとを聞いたり相談に対応しています。家族には、その状況に応じて短期入所のことだけでなく、障害サービスとその利用に関することも丁寧に説明して支援を行っています。相談支援事業所とも連携して情報の提供などの支援を行っています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目		
タイトル②		
内容②		

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	居室は広めの個室で、利用者は家と同じように自分の生活スタイルで過ごすことができます
	内容	利用者の居室は広めの個室です。テレビやラジカセが設置されているので、利用者はテレビを見たり、ラジカセで好きな音楽を楽しんだりすることができます。また、好きな物を持ってこることもできるので、家と同じように自分の生活スタイルで過ごすことができます。居室は介護ユニットの中にあり、他の利用者と一緒に生活することになりますが、部屋は少し離れた位置にあり、また、他の利用者との関係に配慮して見守り、短期入所の利用者が戸惑ったり、不安を感じることはないよう支援を行っています。レスパイトで、繰り返し利用する人が多くいます。
2	タイトル	日中は、併設の生活介護の多種多様なプログラムの中から選んで利用することも、普段利用している通所施設に通うこともできます
	内容	併設の生活介護事業では多種多様な活動プログラムを用意しています。和紙作品・木工品・陶器・絵画などの創作活動、散歩・機能訓練・リラクゼーション・音楽療法などの中から利用者が自分の好みや障害特性に合わせて選び、日中活動に取り組んでいます。短期入所の利用者も好きな活動に参加して自分らしさを発揮することができます。他の通所施設を利用している人は、日中はそこに通うことができるよう支援を行っています。
3	タイトル	
	内容	
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	施設の建替え計画の中で短期入所の定員を増やすことを検討しています。その実現を図り、地域のニーズに応えていくことが期待されます
	内容	短期入所の定員は1人であるため、緊急時の利用やミドルステイなどは受入れが難しい状況です。また、短期入所の居室が介護ユニットの中にあることから、強度行動障害の利用者の受入れも難しい状況にあります。定員問題は地域の社会資源としての役割を果たす上では課題の一つといえると思います。成人部では、施設の建替え計画の中で、短期入所の定員を3人に増やすことを検討しているとのことですが、その実現に向けて取り組むことが期待されます。
2	タイトル	引き続き、利用者に関する情報の的確な把握と職員間の情報の共有の徹底に取り組むことが望まれます。
	内容	現在はリピーターによる利用が主になっていますが、利用の頻度や間隔によって、利用者に関する情報の把握や職員間の共有の面で改善が必要なケースもあるようです。引き続き、利用者に関する情報の的確な把握と職員間の情報の共有の徹底に取り組むことが望まれます。
3	タイトル	
	内容	